

2010年度 軽井沢サクラソウ自生地調査 要約書

■ 私たちは、自生しているサクラソウについて軽井沢全域で調査を始めてみました ■

私たちは、自生しているサクラソウについて軽井沢町全域で調査を始めてみました。調査を毎年続けていくとサクラソウが増えているのか、減っているのか、その程度はどの位か、何が影響しているのか、といったことが分かるようになります。

町花であるサクラソウをモノサシとして、軽井沢の自然の変化が見えてきます。集められたデータは、将来に向けて私たちの町の自然をどのように保全していけばいいのか、話し合うための大切な情報になります。

来年度以降の調査に参加してみたい方、軽井沢の自然環境を守ることに関心のある方など、どなたでも調査に参加できます。

2010年度 調査の概要

■調査概要

- ・モニタリング調査による最初の年（基準年）の全域調査
- ・調査期間は2010年4月25日（日）～6月17日（木）
- ・軽井沢町全域とその周辺地域を11エリア（A～K）に分ける
- ・調査体制は当会会員の内、希望参加者約50人がエリア別に
- ・1次調査、2次調査（確認調査）を記録シートに記入

■集計概要

以下の内容が確認された（集計図、次項参照）

- ・確認できたサクラソウ自生地の地点総数は197ヶ所
- ・確認できたサクラソウの株総数は19,302株
- ・自生地はほぼ軽井沢全域におよぶ
- ・自生地の標高は888～1,250m
- ・一部在来種ではあっても自生ではなく移植の可能性がある
- ・自生地は人の手が入っている地点とそうでない地点がある
- ・自生地は落葉広葉樹林下、田畑の畦、川沿い、草原他多様

■成果

- ・モニタリング調査として比較対照可能な基準年データを取得
- ・改めて観察することにより、自然の多様性や素晴らしさを体験

課題と今後の進め方

■課題

- ・サクラソウ自生地をすべて確認できたわけではない
- ・株数の数え方や地点の捉え方に調査員ごとにバラツキあり
- ・専門家のアドバイスを受けながら、より確かな情報にする

■方向

- ・自然増減を平準化し、変化を掴むため3～5年の継続調査
- ・調査参加者を住民一般まで拡げ、住民参加型調査へ移行
- ・他の指標生物種にも調査を拡大し、生態系として把握する

■留意

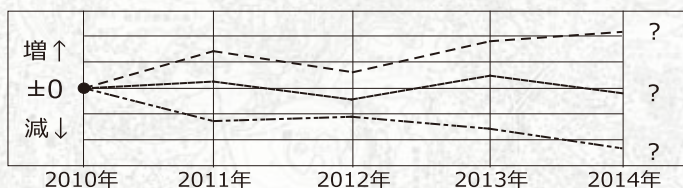
- ・調査結果を公表することで意図しない出来事（盗掘等）の防止
- ・自生地の大半は私有地のため、調査への理解と協力が必要
- ・研究機関（大学等）、教育委員会、他団体等と連携する

調査対象のサクラソウ(桜草)とは

日当たりを好む湿地性の多年性植物 1993年輕井沢町の町花に制定



モニタリング調査は変化を知るため



軽井沢30区分を11エリアに分けて調査

軽井沢の生活地域を30区分した自治会組織
行政とは独立しているが協力関係にある30区等を以下のような調査エリアに設定した

Aエリア（旧軽井沢、離山）	Gエリア（塩込、鳥井原、油井）
Bエリア（新軽井沢、南ヶ丘）	Hエリア（風越団地、杉瓜、茂沢、下発地）
Cエリア（中軽井沢、星野、塩壺、古宿）	Iエリア（ニュータウン、馬取、上発地）
Dエリア（千ヶ滝西、千ヶ滝中）	Jエリア（成沢、南軽井沢）
Eエリア（浅間台、大日向、借宿、つくしヶ丘）	Kエリア（小瀬、峠町、御代田町等周辺地域）
Fエリア（追分、三ツ石）	

「軽井沢サクラソウ会議」とは

町花サクラソウをシンボルとして、町の多様な生態系の保全活動を実践するボランティア団体として、平成12年（2000年）に発足した。サクラソウ自生地の調査・手入れから活動を開始した。

現在では、一般住民と共に、生態学・里山の自然・文化などの講演活動なども実施している。

軽井沢町の生態系保全に有効な対策を提案し実施するために活動している。現在の会員数は100余名。

代表幹事 須永 久

本件の連絡先

軽井沢サクラソウ会議事務局 担当者：今城 治子（いましろ はるこ）
Tel：0267-48-3512 Fax：0267-48-3512
mail：info@sakuraso.org URL：http://www.sakuraso.org
〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町発地 1184-85